

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991000015		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 香芝(1)		
所在地	奈良県香芝市五位堂1丁目341-1		
自己評価作成日	令和2年11月26日	評価結果市町村受理日	令和3年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JikyosyoCd=2991000015-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	令和3年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状を把握し、その方に沿ったケアを行っています。日々の生活の中で機能訓練を行いながら身体機能を維持していけるように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者の快適で穏やかな生活の支援に向け、職員間で話し合うことや連携良く支援することを大切にし、利用者との日々の関わりの中で希望を聞いたり意向を汲み取れるよう努め、食事作りや掃除等個々の残存能力を活かしながら暮らせるよう支援しています。3か月毎に行う身体拘束廃止委員会の中で研修を行ったりセルフチェックシートを用いて個々の関わりを振り返り、寄り添うケアや言葉の掛け方に配慮し利用者を尊重し尊厳を守る対応に努めています。また家族との関わりも大切にし新型コロナウイルスの流行に伴い、その流行状況に合わせ感染症予防対策を講じた面会の取り組みやリモート面会の導入するなどの工夫をしたり、利用者の様子を毎月写真付きの便りや電話等で伝え意見を言いやすいよう配慮しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に理念を共有し、実践しております。	地域密着型サービスを多く運営している法人理念をホーム独自の理念とし、職員の入職時オリエンテーションで説明しています。事務所に掲示し朝礼で唱和をすることで意識して日々のケアに当たられるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつではありますが地域の方々との交流を深めている状況です。	自治会に加入し以前は地域交流会や保育園児との交流、ボランティアの来訪を受ける等様々に交流してきましたが、コロナ禍においては交流を中止しています。近隣のグループホームとの情報交換や運営推進会議の出席を依頼している民生委員にはホームの状況を伝えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かさきれておりませんので、少しずつ地域の方々との交流を図っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加率も良くなく、意見も少ない為、情報の共有もあまりできておりません。	運営推進会議は家族や市職員、近隣住民等の参加の下各月に開催していましたが、コロナ禍には市からの通知もあり書面で利用者の状況や行事やリモート面会のこと等ホームの取り組み等を写真を添えて報告しています。報告については直接手渡しし、地域の情報を聞いたりホームのことも話すようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば報告、連絡、相談してるので協力関係は築けております。	市町村担当者にはわからない事や相談事は窓口に出向いたり電話で聞いており、運営推進会議の議事録も都度提出しています。事業所連絡会やグループホーム合同の運営推進会議もコロナ禍で中止していますがメールでのやり取りの中で再開も検討しています。市からのアンケート調査には都度答えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解した上で、玄関のみ施錠を行っております。	3か月毎に身体拘束廃止委員会を行い、委員会の中で研修を行ったり、セルフチェックシートを用いて個々の関りを振り返っています。玄関の施錠は職員の体制により行うこともありますが、できる限り開錠し外に行きたい利用者には寄り添い外出ができない中でも庭先に出る等拘束感を感じないよう支援しています。	

愛の家グループホーム 香芝(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回全職員、新しい職員には初日に研修を行っております。又虐待が起こらない現場作りに努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部職員の研修参加となっている為、内容を全職員で共有し支援に繋げていきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一部職員の研修参加となっている為、内容を全職員で共有し支援に繋げていきたいと思っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	見学の際に不明な点がないよう説明をさせて頂いております。又、アンケートにて対応もしております。	利用者の意見や要望は日々の関わりの中で聞き、食べたいものを献立に反映したり出前を取るなどしています。家族へ毎月写真付きの便りを送り利用者の様子を伝え、電話や面会時に意見を聞いています。コロナ禍ではほぼ電話でのやり取りになっていますが、リモート面会に対応したり一時は会議室での面会にも行い、コミュニケーションを取れるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回個人面談、全体会議を行い意見交換し反映できるよう努めております。	管理者は日々職員に声をかけ意見や提案を言いやすいように配慮し、業務改善や重度化に伴う必要な物品の購入などに繋がっています。誕生日会などの行事は職員が主体で実施したり、研修内容の希望を聞き決めて行う等、職員の意見を運営に活かしています。また毎月行う全体会議でも意見を聞く機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回個人面談、全体会議を行い意見交換し反映できるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体研修、個別研修、希望者には外部研修にて職員のスキルアップに努めております。		

愛の家グループホーム 香芝(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間で不定期ではありますが連絡は取っております。職員間の交流はありません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接的、間接的な関わり、又その方をよく観察し思いを出来る限り理解できるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問された際には日常生活の話をして頂き、不安や疑問を無くせるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様の要望にはできる限りの対応をし、自由で安らぎのある生活を送って頂けるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護」ではなく「支援」させて頂いているという立場で、常にその気持ちを忘れず行動するよう心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と連絡を取りながら、より良い「支援」ができるよう相談させて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や行事参加の声掛けを行い、少しでも関係や交流を保って頂けるよう支援に努めております。	コロナ禍以前には友人や知人の面会があったり、家族と自宅や外食に出かける方もいました。一時面会を再開した時に友人の面会があり、またリモート面会を開始した際に海外在住の家族との面会が叶う等、馴染みの関係の継続支援に繋がっています。	

愛の家グループホーム 香芝(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席の工夫をし、孤立されないように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際には今後のお話などさせて頂いております。又他施設へ移られる際は、その施設の方へ状況を詳しく伝える様しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様子観察や傾聴をし、本人の意向に近づける様させて頂いております。	入居前に自宅や病院、施設を訪問し本人や家族と面談したり、担当していたケアマネジャーから情報を得て生活歴や暮らし方の希望、趣味嗜好等の把握に繋がっています。入居後日々の関りの中で気づいたことは記録に残し、意思疎通の困難な利用者の家族から得た情報をもとにユニット会議で話し合い思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は以前の生活と、ご本人の状況を把握するよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の様子観察や情報収集をし現状把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様には状態を伝えて意見を頂き、現状に適した介護計画作成に努めております。	利用者の思いや家族の意向、アセスメントを基に介護計画及び作業療法士を中心に生活機能向上計画を作成しています。3か月毎にモニタリングや再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開き見直しています。見直し前に家族に意向を確認したり必要に応じて訪問看護師を通して医療について意見を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成し、定期的に全体会議を行い職員間での情報共有に努めております。		

愛の家グループホーム 香芝(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスを行えるよう家族様、職員間での意見交換に努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園、幼稚園の行事に招待して頂いたり、ホームの行事にご参加いただく事で地域の方々とのふれあいを図っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科に関してはホームDrと連携を取っております。それ以外の受診に関しては家族様とご本人の希望を取り入れております。	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝え、継続や専門医への受診は家族と一緒にいくことを基本としていますが必要に応じて職員が同行しています。ホームの協力医は月に2回往診があり、また訪問看護師による健康管理を週に1度受け、24時間連携体制を整えています。状況や希望に応じて歯科の往診を受け、コロナ禍で中止していますが訪問マッサージを受けている方もいました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師と連携を取っております。又緊急時は24時間対応のオンコールにて相談させて頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族様と共にDrからの説明を聞かせて頂き、又退院時には今後の支援方針の相談をさせて頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、家族様の意志を尊重しホーム若しくは医療施設どちらでも対応できるよう話し合っております。	入居時に重度化や看取り対応の指針にそってホームで支援できることやできないことについて説明しています。重度化した場合には医師から家族に説明してもらい、一緒に話し合い方針を決め家族には面会を多くしてもらう等の協力を得て看取り支援に取り組んでいます。また研修を行ったり訪問看護師からアドバイスを得て支援し、支援後には振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員対応できるよう定期的に研修を行っています。		

愛の家グループホーム 香芝(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、常に対応できるよう努めております。	年に2回行う消防訓練は昼夜を想定し、うち1回は消防署の立ち合いの下実施し、通報や初期消火、AEDの使用方法、利用者も一緒に避難誘導の訓練を実施しています。訓練の際には近隣の方に案内をしたり運営推進会議で報告を行っています。3日分以上の食料や水、カセットコンロや懐中電灯などの備蓄をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを考慮した声掛けを全職員心掛けております。	入職時の接遇マナー研修や3か月毎に行う身体拘束等の委員会の中で利用者を尊重し尊厳を守る対応について職員に伝えています。敬語を基本としていますが、利用者との関係性も考慮しながら家庭的で個々に合わせて利用者が笑顔になるような言葉かけを心がけています。不適切な対応があれば都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの一方的な支援は行わず、選択して頂ける声掛けをするよう支援を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、常に入居者様を優先、行動する様に話し合っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立以外の方には衣類などの選択、容姿にも気をつけご本人の希望を尊重しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回職員と一緒に食事作りをして頂いております。下膳や片付けはできる範囲内ですべて頂いております。	法人の栄養士が立てた献立や週に一度希望を聞きながら決めた献立に沿って担当職員が買い物に行き、利用者にも食材を切ったり盛り付け等のできることに携わってもらい食事作りを職員も一緒に食べています。寿司の出前で取ったりバーベキューを楽しむなど外食ができない中でも食事が楽しめるよう支援しています。ホームの畑で採れたサツマイモでスイートポテトを作ったり、ホットケーキ等の手作りおやつも楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の状態に合わせてキザミ、トロミなどにし、1500kcal/日を目標に提供しております。体重や疾病などにも気をつけております。		

愛の家グループホーム 香芝(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアに関しては、清潔を保つ様に心掛けて実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表にて各個人の排泄パターンの把握に努めております。	排泄記録からパターンを把握したり生活リズムや仕草などから個々のタイミングでトイレに行けるように支援しています。自身でトイレに行く方がいたり重度な方も離床や臥床の際に支援する等個々の状況に合わせた支援をし、退院後には入院前と同じ状況に戻れるよう支援しています。支援方法や排泄用品の選択等は日々職員から意見が出され申し送り等で話し合っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂取できる食事(牛乳・野菜)中心とし、適量の水分摂取を心掛けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々ご本人に確認をし入浴して頂いております。自己決定が困難な方、介助が必要な方に関しては清潔保持の為、定期的に入浴して頂いております。	入浴は週に3回午後の時間帯を基本とし、一人ずつ湯を入れ替えゆっくりと個々のペースで入ってもらうよう支援しています。入居時に入浴についての希望を聞き希望があれば対応し、好みのシャンプー等を持参している方がいたり希望に応じて同性介助での対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて昼間休息をして頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては変更も多いので、その際は職員間で申し送りをし、情報共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の好きな事、楽しいと思われる事柄を探り職員間で共有し支援に努めております。		

愛の家グループホーム 香芝(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出(散歩やドライブ)はしていますが家族や地域の方々とは行っておりません。施設にて開催する催し物には参加して頂けるよう連携を図っております。	以前は日常の散歩や花見等に出かけていましたが、新型コロナ感染症の患者が急増している現在は外出をすべて中止しています。感染症の流行状況をみて近隣への散歩に出る時期もありましたが、安全を優先した対応を行い、収束後に再開していきたいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所にて管理しておりますが、ご本人の希望時には買い物に行きご自分で買い物ができるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはしてませんが、希望時には家族への電話をして頂いております。その際には家族様の都合も把握し対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃に重点を置き、四季に応じた温度調節、居心地の良い空間づくりに努めております。	玄関に成果を飾ったりリビングにはクリスマスや正月などの季節行事に合わせた飾りつけをしています。外出ができないことから初詣での雰囲気を感じてもらおうよう神社に見立てたセットを作ったり、イルミネーションを楽しんでもらっています。密にならないような座席の配置や毎日換気や掃除を行い清潔を保ち感染予防に努めています。またソファを複数置き少人数でも過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では孤独感を感じられることのないよう、入居者同士の会話を大切にしながら職員も間に入り楽しい雰囲気作りを心掛けております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅で使用されていた物や家具などを置いて頂き、安心して過ごせる空間づくりを心掛けております。	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうよう説明し、タンスやテレビ、椅子、机、大切にしている仏壇等を持参し利用者や家族と相談して配置しています。写真や人形を飾ったり、ラジオや趣味であった電子ピアノや本等をそばに置き、その人らしい居室となっています。また希望があればベッドではなく布団を敷き休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送って頂く為、「できること」「わかること」を増やせるよう間接的な支援も大切にしております。		